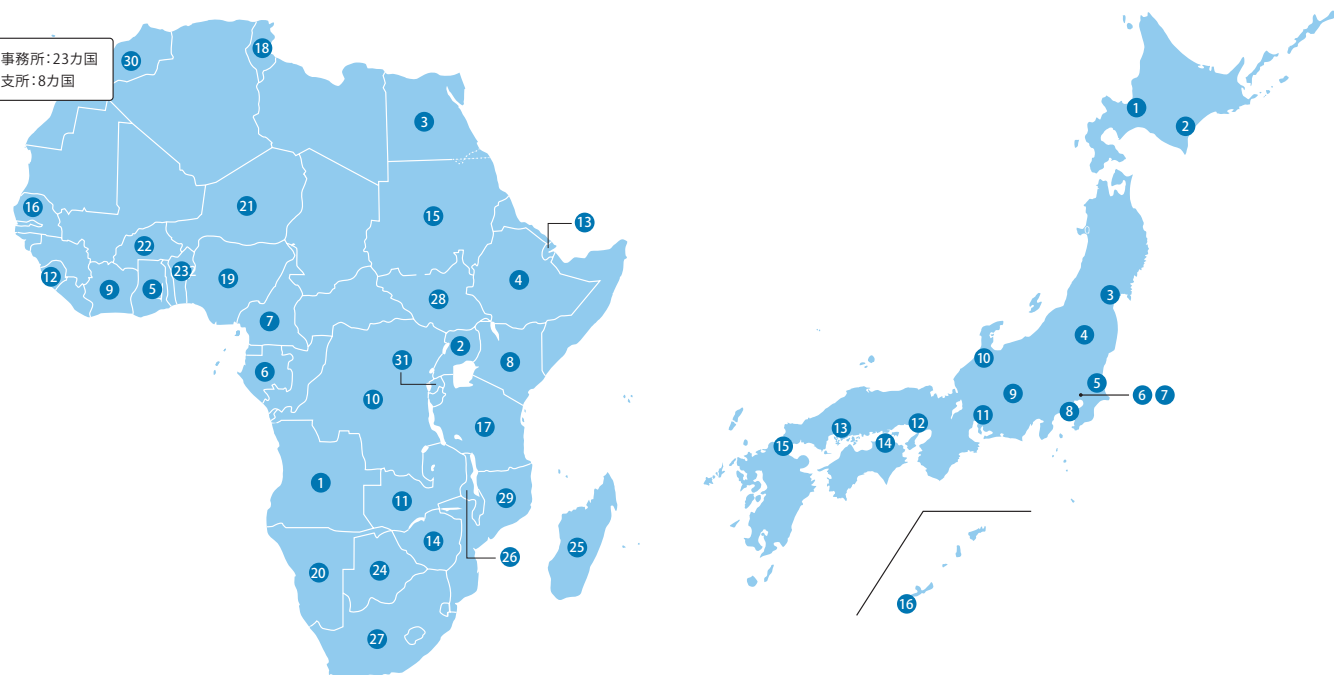


JICAの拠点

事務所: 23カ国
支所: 8カ国



アフリカ

- 1 アンゴラ事務所
- 2 ウガンダ事務所
- 3 エジプト事務所
- 4 エチオピア事務所
- 5 ガーナ事務所
- 6 ガボン支所
- 7 カメルーン事務所
- 8 ケニア事務所
- 9 コートジボワール事務所
- 10 コンゴ民主共和国内務所
- 11 ザンビア事務所
- 12 シエラレオネ支所
- 13 ジブチ事務所
- 14 ジンバブエ支所
- 15 スーダン事務所
- 16 セネガル事務所
- 17 タンザニア事務所
- 18 チュニジア事務所
- 19 ナイジェリア事務所
- 20 ナミビア支所
- 21 ニジェール支所
- 22 ブルキナファソ支所
- 23 ベナン支所
- 24 ボツワナ支所
- 25 マダガスカル事務所
- 26 マラウイ事務所
- 27 南アフリカ共和国事務所
- 28 南スーダン事務所
- 29 モザンビーク事務所
- 30 モロッコ事務所
- 31 ルワンダ事務所

国内

- 1 JICA北海道(札幌)／ほっかいどう地球ひろば
- 2 JICA北海道(帯広)
- 3 JICA東北
- 4 JICA二本松
- 5 JICA筑波
- 6 JICA東京
- 7 JICA地球ひろば
- 8 JICA横浜
- 9 JICA駒ヶ根
- 10 JICA北陸
- 11 JICA中部／なごや地球ひろば
- 12 JICA関西
- 13 JICA中国
- 14 JICA四国
- 15 JICA九州
- 16 JICA沖縄



ABEイニシアティブについて知りたい人は
JICAウェブサイト「ABEイニシアティブ」
<https://www.jica.go.jp/africahiroba/business/detail/03/index.html>



JICAの拠点について知りたい人は
JICAウェブサイト「国内・海外のJICA拠点」
<https://www.jica.go.jp/about/structure/index.html>



アフリカについて知りたい人は
JICAウェブサイト「アフリカひろば」
<https://www.jica.go.jp/africahiroba/>

独立行政法人国際協力機構 アフリカ部
〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
TEL: 03-5226-8208 Email: abe2@jica.go.jp
<http://www.jica.go.jp/>

2024年2月



アフリカの若者のための
産業人材育成

ABEイニシアティブ



African
Business
Education
Initiative
for Youth



ABEイニシアティブとは

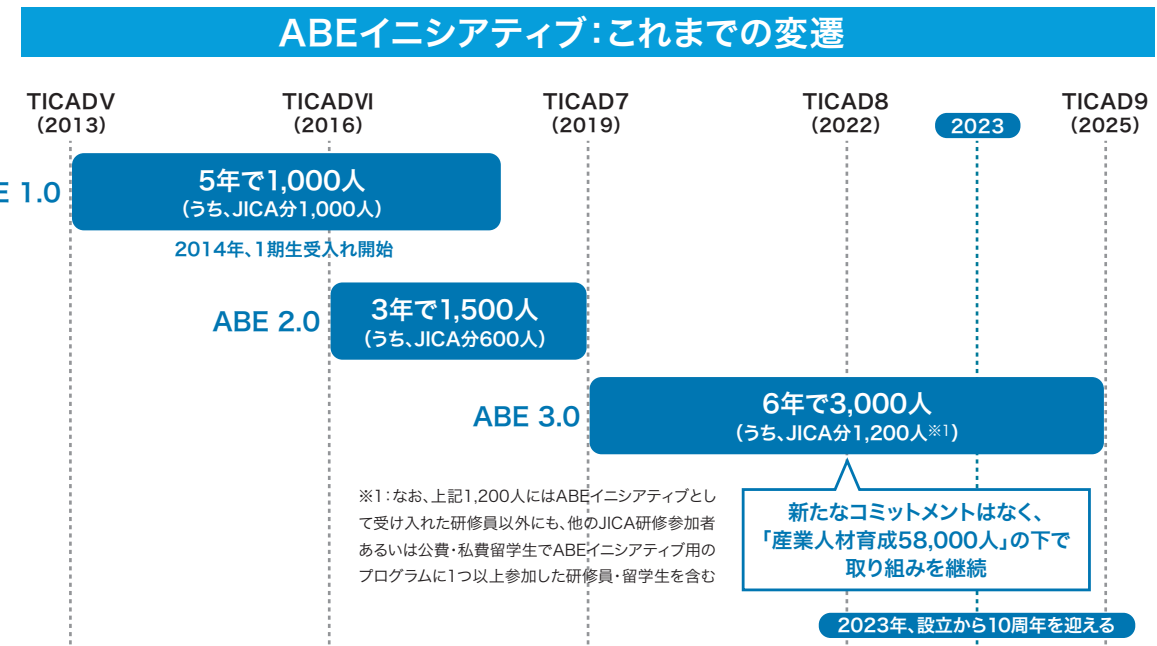


ABEイニシアティブ(アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ:African Business Education Initiative for Youth)は、アフリカの若者を対象とした長期研修プログラムです。アフリカの産業人材の育成と日本企業のアフリカビジネスを支援する人材の育成を目的としています。アフリカの若者を日本に招き、日本の大学での修士号取得と日本企業などでのインターンシップをはじめとした、日本企業との交流・ビジネスを学ぶ機会を提供しています。

ABEイニシアティブは、2013年に横浜で開催された第5回アフリカ開発会議(TICADV)で、日本が発表したものです。2016年にケニアで開催されたTICADVIでは、「ABEイニシアティブ2.0」として今後も継続して取り組んでいくことが表明されました。2019年に横浜で開催されたTICAD7では、人選の戦略性強化、プログラム内容の拡充・強化、ABEイニシアティブ研修員以外の一部プログラムへの参加拡大を主な柱として「ABEイニシアティブ3.0」が発表されました。2022年にチュニジアで開催されたTICAD8では、引き続き産業人材育成として取り組むこととされました。

2014年9月に初めてABEイニシアティブの研修員が来日しました。8カ国156人からスタートした本プログラムは、2023年12月現在までにアフリカすべての国から1,776人が参加し、うち1,346人が無事にプログラムを終え帰国し、さまざまな分野で活躍しています。

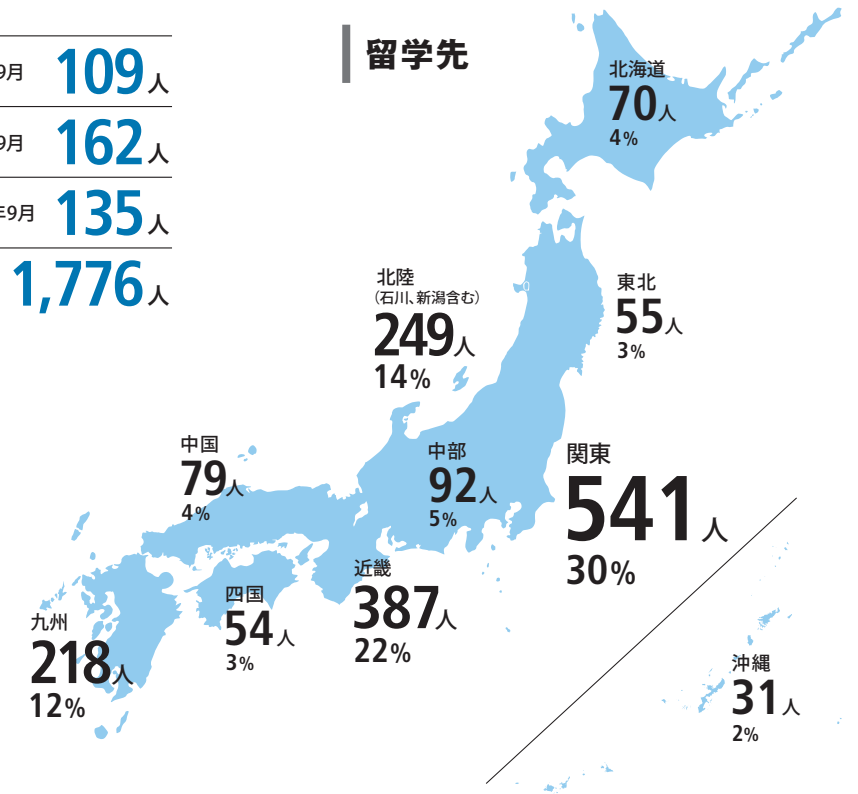
目的	アプローチ	主な対象者
<ul style="list-style-type: none"> アフリカの成長の鍵となる産業人材の育成 日本とアフリカのビジネスを繋ぐ架け橋となる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 日本政府と産業界の共同プログラムとして修士号の取得と企業でのインターンを実施 長期留学により日本社会や企業文化などに理解を持ち日本らしい実践的なビジネスのノウハウを持つ人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> 民間出身:現地の民間企業で就業経験があり、日本企業との連携を通じたアフリカの発展に貢献したい方 政府関係者(日本企業の関心分野に関連する方):産業政策の立案・実施に携わり、政府活動を通じてアフリカの発展に貢献したい方



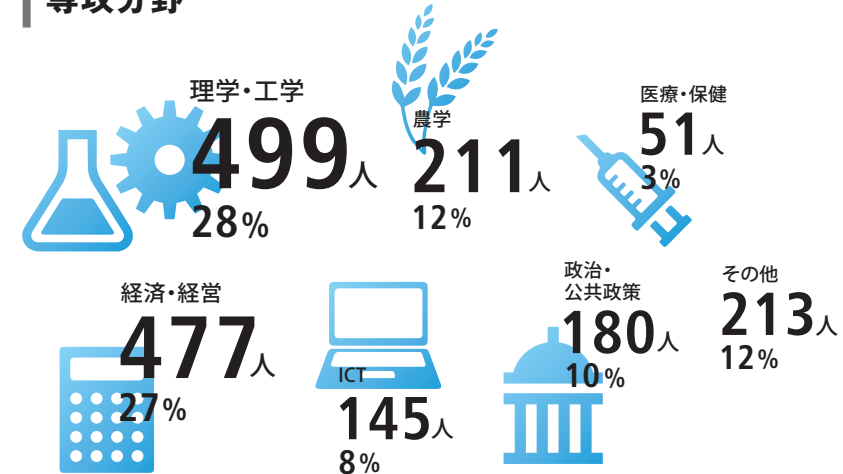
受入実績

第1バッチ 2014年9月	156人	第8バッチ 2021年9月	109人
第2バッチ 2015年9月	317人	第9バッチ 2022年9月	162人
第3バッチ 2016年9月	348人	第10バッチ 2023年9月	135人
第4バッチ 2017年9月	279人	累計	1,776人
第5バッチ 2018年9月	119人		
第6バッチ 2019年9月	66人		
第7バッチ 2020年9月	85人		

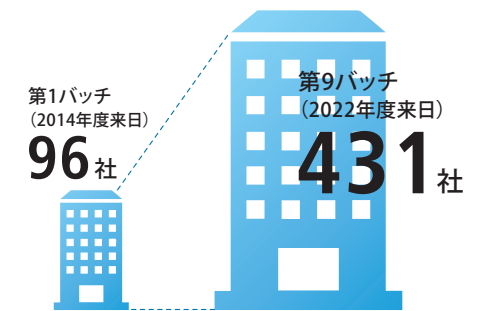
留学先



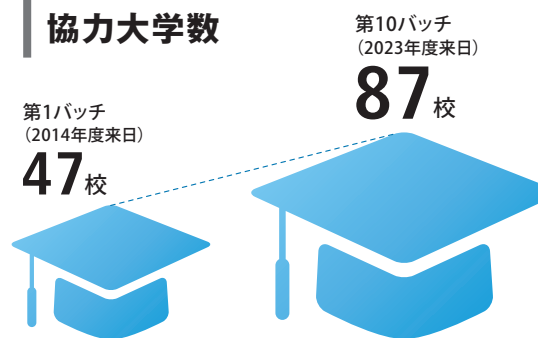
専攻分野



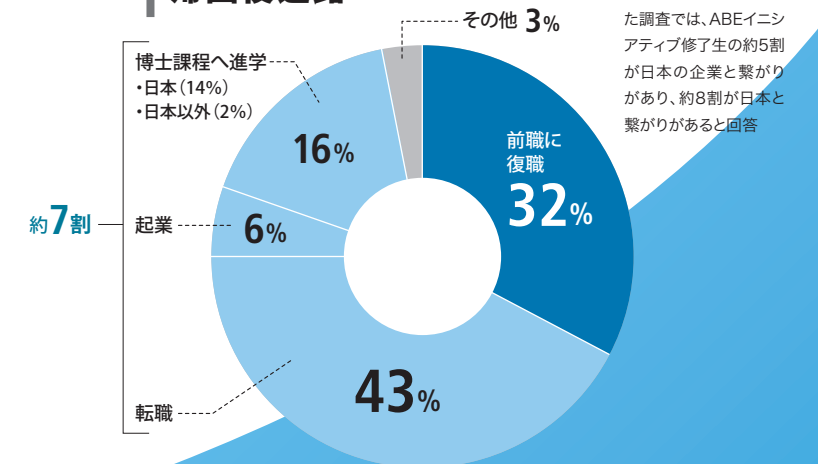
インターン協力機関数



協力大学数



帰国後進路*



来日中の取り組み (インターンシップ、ビジネスプログラム等)

インターンシップ(夏季、修了時)



滋賀県の企業でのインターンシップ

- 全研修員を対象に本邦企業等での夏季インターンシップを提供。
- 企業からオファーがある場合には、プログラム修了後のインターンシップも提供。

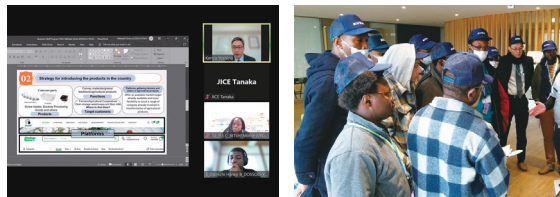
企業交流会



ネットワーキングイベントの様子(2023年10月)

- インターンシップ先とのマッチングも兼ねて、企業と研修員が交流する機会等を年に4回提供。

ビジネス・スキル研修/日本企業の伝統的企業経営に係る研修



ビジネススキル研修(2023年4月)



日本企業理解研修(2024年2月)

- 基本的なビジネス知識を習得する研修を提供。
- また、視察等を通して、日本企業理解を深める研修を一般社団法人海外産業人材育成協会(AOTS)と連携して提供。

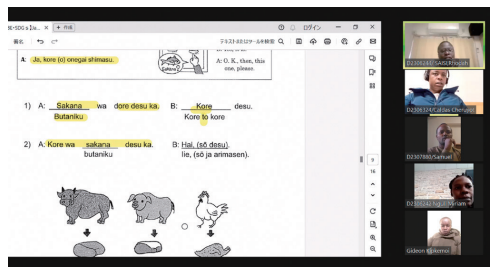
留学生間のネットワーキング



2023年10月のオリエンテーションイベント

- 来日時に加え、年に1回、全国のABEイニシアティブ研修員が他のアフリカ研修員と交流する機会を提供。また、日本の対アフリカ産業開発・民間連携事業の紹介、起業家精神に係る講義等を提供。

日本語研修



- 所属大学において日本語研修機会がない等の一部の研修員に対し、日常生活レベルの基礎的な日本語を学ぶ機会を提供。

プログラムの概要

■JICA ■日本の大学 ■日本の企業

《来日前》

約3カ月 募集

約6カ月 選考
・書類審査 ・面接

約6カ月 選考
・書類審査 ・面接

《来日》

1年～2年6カ月 大学院修士 課程
工学・経済・経営 学・農学・理学・商学・観光 など

1年～2年6カ月 ビジネスプログラム
夏期インターンシップ

2週～6カ月 修了時インターンシップ

《帰国》

帰国後 フォローアップ
・帰国報告会
・現地ネットワーキングフェア
・モニタリング など

連携・ビジネス展開

ビジネスプログラム

来日中のABEイニシアティブ研修員に提供されるビジネス研修等付加的プログラムの総称。

夏季インターンシップ

全員が実施。実施期間は1週間～1か月程度。1年目の夏休みに実施。

修了時インターンシップ

受入企業および所属先(あれば)から同意が得られた研修員を対象に実施。大学院修了後、最大6か月実施。

フォローアップ

帰国報告・ネットワーキングイベント

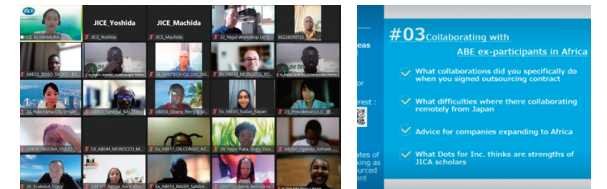
- 修了生の帰国や新規研修員の出発の機会を捉えて、過去の修了生や日本企業関係者等が参加するイベントを実施。



2022年度のエジプトでのイベント

日本企業との関係構築支援

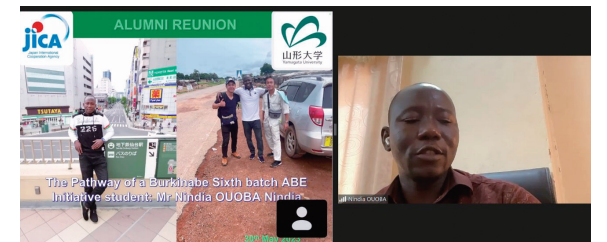
- ABEイニシアティブ修了生に対し、日本企業等で就職するための助言・情報提供や、日本企業とのオンライン交流会を実施。



オンライン交流会(2023年7月)

国を超えたネットワーキング

- 国を超えた横のつながりを維持・強化する取組として、全ABEイニシアティブ修了生を対象とした広域ネットワーキングイベントを開催。ABEイニシアティブ修了生や日本企業の優良事例を紹介し、ネットワーキングを作る場を提供。



広域ネットワーキングイベント(2023年5月)

SNSを活用した繋がり維持

- ABEイニシアティブ研修員・修了生が参加するSNS(LinkedIn)上のグループを2020年に立上げ。
- 企業・海外協力隊関係者も参加し、2023年12月現在約1,170人が参加。



活躍しているABEイニシアティブ修了生

エンジニアとして、日本とチュニジアを繋ぐ手助けをしています



Ms. Guizani Amani
ギザニ アマニ



チュニジア

バッチ	第6バッチ (2019年秋来日)
大学	東京大学工学研究科
インターン先	可児建設株式会社、ソフトバンク株式会社
応募時所属先	Mecater Ingenierie (現地民間企業)
現在所属先	八千代エンジニアリング株式会社



ソフトバンクでのインターンの様子



八千代エンジニアリングのチュニジア事業に従事

来日前
日本の高度な技術に興味

私はチュニジアで鉱山インフラを扱うコンサルタント会社で地盤工学エンジニアとして働いていました。地震に興味があり、日本の防災分野の技術や研究が進んでいることから、日本に来て学びたいと思いました。

来日中
インターンシップを通じて日本のビジネスに触れる

大学では、チュニジアで読んでいた論文の著者の講義を直接受けられて感激しました。指導教官や先輩の手厚い支援を受け、最高の環境で研究を進められました。修了時インターンは大手IT企業で行いましたが、事業開発の経験がないにもかかわらず、海外プロジェクトの事業開発を統括し、その進捗を他のチームリーダーに報告するという仕事を任せてもらい、非常にやりがいのある楽しい経験でした。

修了後
日本企業に就職、日本と世界を繋ぐ

インターンシップの経験から、日本の労働環境、倫理観、働き方を知りたいと強く思うようになり、日本での就職を決めました。八千代エンジニアリングでは、チュニジアの道路整備に日本の技術を導入するなど、様々な国際的プロジェクトに携わっています。これからも日本とチュニジア、アフリカ、そして世界各国を繋いでいきます。

コインランドリーを母国モザンビーク、そしてアフリカ全土に展開することを夢見ています



Mr. Sergio Elidio Morais
セルジオ エリジオ モライス



モザンビーク

バッチ	第8バッチ (2021年秋来日)
大学	国際大学国際関係学研究所
インターン先	株式会社フジタ、株式会社アセンティアホールディングス
応募時所属先	Unique Clothes (自身で起業)、Cle Enterprise (現地民間企業)
現在所属先	Unique Clothes (自身で起業)、Cle Enterprise (現地民間企業)



日本企業関係者と打ち合わせをするセルジオさん(中央)



コインランドリーをアフリカで展開すべく活動している

来日前
常に日本に親しみを感じていた

海外出張が多く、国際的な視野を持ちたいと思っていました。日本のマンガを読んでいた、私の家の前には日本が建てた学校があったり、日本には元々親しみを感じていました。日本で学ぶ機会があると知り、ぜひその機会をつかみたいと思いました。

来日中
日本でコインランドリーに出会う

滞在中、日本にはたくさんのコインランドリーがあることに気づき、アフリカでは珍しいものの、コインランドリーを広げることは可能だと確信しました。世界でフランチャイズ展開する日本企業を支援するアセンティアホールディングスにその思いを伝え、同社でのインターンシップを行いました。日本の様々なコインランドリー・メーカーやビジネスの方法を教えてくださいました。

修了後
ABEイニシアティブの卒業生のネットワークを活用し、アフリカ全土への拡大に向けて邁進中

モザンビークに戻り、アセンティアホールディングスや日本のメーカーと協力して、アフリカにコインランドリーを拡大するプロジェクトに取り組んでいます。まずはモザンビークで1号店が開店します。清潔な衣類を身につけることは人々の健康維持に繋がります。また、服の手洗いにかけていた時間を勉強など別のことに使えるようになります。ABEイニシアティブ修了生のネットワークを活用して、他のアフリカ諸国への展開を目指しています。

日本とマダガスカル、双方を結ぶ活動をしています



Ms. Juvencia Deschamps Ralay Harisoa
ジュヴェンシヤ デスシャン ラライ ハリソア



マダガスカル

バッチ	第3バッチ (2016年秋来日)
大学	名古屋商科大学マネジメント研究科 (NUCB)
インターン先	株式会社おとうふ工房いしかわ
応募時所属先	Galana Distribution Petroliere (現地民間企業)
現在所属先	EDBマダガスカル(マダガスカル経済開発庁)、※起業した会社の運営は別の方に任せている



インターン参加の様子(手前右)



マダガスカルへの直接投資誘致に携わっている

来日前
カイゼンがきっかけで来日決意

マーケティングと戦略の修士号を取得し、マダガスカルで約10年間、様々な産業やビジネス分野で働きました。前職では継続的改善を担当しており、カイゼンについてもっと学ぶため、ABEイニシアティブへの参加を決めました。

来日中
日本のビジネスを体験

研修中にトヨタ自動車など日本を代表する企業を訪問し、「ケイレツ」のような日本のビジネス文化を知ることができました。NUCBで教わった様々なビジネスケースを通じて、自分のリーダーシップ像を形成することができました。

修了後
“リーダー”を目指して

修了後、日本でしばらく働いた後、地域社会に貢献することの重要性を感じ、母国マダガスカルで日本での経験やカイゼン・おもてなしといった日本の哲学を教えました。その後2つの会社を起業しました。一つはマダガスカルへの進出を考えている日本企業のためのビジネス・コンサルティング会社、もう一つはマダガスカル伝統工芸を紹介するeマーケットです。最近では、マダガスカル国立投資促進機関であるEDBの広報・企業関係担当ディレクターとして、投資機会の促進や、日本の投資家を含む海外からの直接投資の誘致に携わっています。

政府の立場から、農業分野で様々な日本企業の手助けを行っています



Mr. Paul Ayella
ポール アイェラ



ウガンダ

バッチ	第3バッチ (2016年秋来日)
大学	筑波大学生命環境科学研究所
インターン先	NTCインターナショナル株式会社
応募時所属先	Ministry of Agriculture Animal Industry and Fisheries (農畜産水産省)
現在所属先	Ministry of Agriculture Animal Industry and Fisheries (農畜産水産省)



日本企業のウガンダでの活動をサポート



他の留学生と交流の様子

来日前
日本の灌漑技術を学びたい

ウガンダの灌漑プロジェクトで日本の企業や専門家と仕事をした経験があり、日本の先進的な灌漑技術を学び、ウガンダの灌漑開発に携わりたいと思い、来日しました。また、日本の文化や、着実な経済発展につながる労働倫理も学びたいと思っていました。

来日中
学業やネットワーキングに精を出す

日本では、灌漑水管理を専攻しました。研究発表が評価され、修士課程の水資源・環境工学の最優秀学生として表彰されました。研究だけではなく、滞在中はスタートアップ企業を含む多くの日本企業とコンタクトを取ることに努めました。日本で出会った三洋コンサルタントとは、現在ウガンダで一緒に仕事をしています。

修了後
農業分野で日本企業との連携を目指す

専門性を更に深めるため筑波大学で博士号を取得し、その後農畜産水産省に戻り、ウガンダの持続可能な灌漑開発推進をしています。日本企業とウガンダの大学間のMoU締結を支援したり、私が代表を務めるウガンダ支社を設立したりしました。他にも、多くの日本企業に対してウガンダでのビジネスチャンスについて情報提供しています。今後も、ウガンダとアフリカ市場の農業開発に参入したいと考えている日本企業を支援し続けたいと思います。

ABEイニシアティブと連携する日本企業



楽天グループ株式会社

企業概要

- ◎社名: 楽天グループ株式会社
- ◎所在地: 東京都世田谷区
- ◎業種: サービス業
- ◎事業内容: インターネットサービス
- ◎インターン研修員受入実績: 4名
- ◎企業URL: <https://corp.rakuten.co.jp/>

当社は、JICAと包括連携協定を2021年に締結し、その一環として、ABEイニシアティブ研修員をインターンシップとして受け入れ始めました。インターンシップでは、従業員と交流する機会を多く提供しており、受け入れを通して、従業員の社会貢献や後輩育成のモチベーションの向上に繋がっています。

インターンシップ以外でのABEイニシアティブ留学生との連携実績としては、JICAが実施するProject NINJA (Next innovation with Japan) (注1)におけるピッチコンテストで入賞したガーナの元ABEイニシアティブ研修員 (2018年来日) に対して、同研修員が起業した事業のビジネス展開のメンタリング支援 (注2) もあります。

当社では今後も様々な事業活動を通じてSDGsの達成に

貢献し、多様なステークホルダーの皆様と協力しながら、イノベーションを通じて持続可能な社会の実現を目指してまいります。

(注1) Project NINJA (Next Innovation with Japan) は、JICAの開発途上国におけるビジネス・イノベーション創出に向けた起業家支援を目的として、企業啓発活動や、政策提言、企業経営の能力強化等を実施。
(注2) セミナー開催報告「アフリカ新興テック ピッチ決勝戦」ニュース・メディア-JICA
https://www.jica.go.jp/information/seminar/2020/20210226_01.html



同社社員とインターン生の様子



日之出産業

企業概要

- ◎社名: 日之出産業株式会社
- ◎所在地: 神奈川県横浜市
- ◎業種: 製造・卸業
- ◎事業内容: 排水処理薬品製造・販売、排水処理設備の設計施工・メンテナンス
- ◎インターン研修員受入実績: 56名
- ◎企業URL: <https://www.hinodesangyo.com>

2013年に横浜で開催された第5回アフリカ開発会議 (TICADV) でのブース出展をきっかけに、アフリカのビジネスに可能性を感じ、インターンを受け入れることにしました。これまでに約20カ国から50名以上を受け入れています。

インターン研修員には、当社の製品が現場で使われていることを目で確かめてもらい、自国の水処理問題の解決に役立てる方法や、当社の海外でビジネスを展開する上での課題を洗い出してもらったりしています。

インターンの受入は、当社の海外ビジネス展開に大きな変化をもたらしています。セネガルおよびモロッコ出身のインターン2名を社員として採用し、近日ベナン出身の



ABEイニシアティブ研修員採用はアフリカビジネスにつながりました

研修員も採用予定です。モロッコの研修員採用は、当社で初めてのモロッコの事業につながりました。その他、インターンを通して南アフリカ共和国やセネガルの企業と連携協定 (MOU) の締結や、留学先の日本の大学との情報交換や共同研究にもつながり、また、開発途上国向けに品質を維持しながらコストダウンにも力を入れた製品開発を行うようになりました。



DIVIC社

企業概要

- ◎社名: 株式会社ダイビック
- ◎所在地: 神奈川県横浜市
- ◎業種: 受託開発ソフトウェア業
- ◎事業内容: 人材育成・教育サービス
- ◎インターン研修員受入実績: 64名
- ◎企業URL: <https://diveintocode.jp/>

当社はABEイニシアティブの力でアフリカに展開できたと言っても過言ではない会社です。2018年からインターンシップの受入を開始し、これまで60名以上のABEイニシアティブ研修員を受け入れてきました。当初は研修員には教材の英語翻訳を中心に協力してもらっていましたが、その後は、アフリカの新規事業展開国において、英語で

プログラミングを教えるメンター業務を担ってもらうようになりました。現在は、ブルキナファソ、マリ、ガーナ等において、ビジネスパートナーとして協力してくれているABEイニシアティブ修了生がおり、事業拡大の戦略策定、現地パートナーの発掘、政府や学校、企業との調整、商談のフォローアップ等に従事する人材の発掘を期待しています。

アフリカは相対的に能力の高い方がおり、ポテンシャルが高いと感じています。ABEイニシアティブは、日本とアフリカにおける人と人の接点を強固につなげる欠かせないインフラと評価しています。人とつながりがビジネスの始まりであり、信用できる人材であれば国籍や言語は問わずに人は親交を深めることができるのです。



ABEイニシアティブ修了生はビジネスパートナーとして活躍してくれています



辻プラスチック

企業概要

- ◎社名: 辻プラスチック株式会社
- ◎所在地: 滋賀県東近江市
- ◎業種: 製造業
- ◎事業内容: 熱可塑性樹脂の射出成形、アルミフレーム安全柵の設計製作、ソーラーアプリケーション (自発光道路紙、自発光タイル)
- ◎インターン研修員受入実績: 18名
- ◎企業URL: <https://www.tsuji-pla.co.jp/>

当社とアフリカの関係は、ABEイニシアティブが契機です。2016年にケニアで開催された第6回アフリカ開発会議 (TICADVI) で、当社製品のアフリカでのニーズに気づき、インターンシップの受入を開始しました。

インターンシップでは、当社製品に関する理解や扱い方を研修員に対して教え、現地市場の情報を知ることだけでなく、現地でのビジネス展開を任せられるビジネスパートナーの育成を目指しています。夏季インターンでは、当社製品の特長や過去に行ったプロジェクトの説明を行い、将来パートナーとなり得そうな方には、修了時インターンで、製品の組み立てや操作方法等の踏み込んだ内容を学んでもらいます。

セネガル、ニジェール、南スーダン出身のインターン経験者は、母国で現地法人を設立し、当社製品を現地で展開する強力なパートナーとなっています。その他にも、修

了時インターンを経験した研修員は全員ビジネスパートナーとして活躍しており、ABEイニシアティブなくして、アフリカの現地でのパートナー作りはできないと言っても過言ではありません。



修了時インターンシップの様子

ABEイニシアティブ研修員を受け入れる本邦大学

ABEイニシアティブの趣旨そのままの活動が学内で進行しています



国際大学

大学概要

- ◎所在地: 新潟県南魚沼市
- ◎主な研究科: 国際関係学研究所、国際経営学研究所
- ◎ABEイニシアティブ研修員(留学生)受入実績: 201名(2023年12月現在)
- <https://www.ij.ac.jp/>

本学は、ABEイニシアティブが発足した2014年から積極的にアフリカ人学生を受け入れてきました。その結果、ABEイニシアティブ研修員を含むアフリカ留学生コミュニティはアジア・コミュニティに次ぐ二番目の規模を誇ります。

また、2022年に来日したナイジェリアのABEイニシアティブの研修員が立ち上げた「IUJ起業家クラブ」があります。日本で学ぶ間に起業家としての能力を磨き、日本、そして国際大学のホスト・コミュニティである南魚沼地域の人・リソースとつながり、アフリカとの架け橋となることを目指す組織です。

本学のビジネス・スクールの教員や起業家を招いての講演会、ビジネス・コンペの開催等、ABEイニシアティブの基本理念である日本とアフリカをビジネスでつなぐ活動を積極的に展開しています。



「IUJ起業家クラブ」を立ち上げたナイジェリアからの研修員

多様なアフリカとの出会いに繋がっています



東京大学

大学概要

- ◎所在地: 東京都文京区
- ◎主な研究科: 農学生命科学研究科、工学系研究科、公共政策大学院等、新領域創成科学研究科等
- ◎ABEイニシアティブ研修員(留学生)受入実績: 25名(2023年12月現在)
- <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>

アフリカは、50を超える様々な国があり、国の数以上に多様性のある大陸です。本学の農学生命科学研究科では、ABEイニシアティブを通じて、これまで受け入れた実績のないアフリカ諸国から大学院生を迎えることができました。このことは、受入側のアフリカ理解を助けるだけでなく、研究科の多様性を高め、教育と研究の質向上に貢献しています。

また、本学で学んだ研修員は、最新の学術的知識と学内外に築いた人的ネットワークを活用し、それぞれの母国で活躍しています。中には、ガーナで起業した研修員もいます。本学ではアフリカで新たな事業を興す

「起業家」の育成に関心を高めており、今後は、研修員が母国で起業したり、研修員との繋がりを利用して日本人がアフリカで起業したりすることが増えていくのではないかと考えています。



日本では修士課程での研究の他にも、日本文化や歴史、日本人とのネットワーク等多くのものを得て卒業していきます

ICTを利活用した社会課題解決手法に関する学びを通して、日本とアフリカの共創が生まれています



神戸情報大学院大学

大学概要

- ◎所在地: 兵庫県神戸市
- ◎主な研究科: 情報技術研究科
- ◎ABEイニシアティブ研修員(留学生)受入実績: 126名(2023年12月現在)
- <https://www.kic.ac.jp/>

本学は、2013年、開発途上国が持つ成長の勢いを神戸、兵庫そして日本の活性化につなげることを目指し、英語だけで修士号を取得できる「ICTイノベーターコース」を開設し、多くのABEイニシアティブ研修員を受け入れてきました。

研修員は、ICTと本学独自の課題解決手法「探究実践」等を学ぶことで、社会課題解決に資する実践的な手法を日々創出しています。また、日本人学生のアフリカ対象の研究活動への助言や、アフリカで起業する日本人への協力など、研修員と日本人学生の良い連携事例が生まれています。

加えて、本学による草の根技術協力事業

(注1)や神戸主催イベント(注2)、日本とアフリカをつなぐ産官学地連携「(仮称)ABE-KOBEイニシアティブ」などにも積極的に研修員が貢献してくれています。

- (注1)「神戸ーキガリICTビジネスイニシアティブ」
- (注2)「アフリカ月間in神戸」



多様な文化の中で学生らと共に課題解決の手法を学んでいます

地方都市の大学の活性化、地域住民との異文化交流にも貢献しています



足利大学

大学概要

- ◎所在地: 栃木県足利市
- ◎主な研究科: 工学研究科
- ◎ABEイニシアティブ研修員(留学生)受入実績: 45名(2023年12月現在)
- <https://ashikaga.ac.jp/>

足利大学は、JICAのケニアでの事業(注1)に関わったことをきっかけに、ABEイニシアティブ研修員の受入を開始しました。研修員は、自治体の夏祭りや太鼓の演奏、地域の空手教室への参加、地元の高校での講義の実施など、地域住民とも積極的に繋がり、地域からも喜ばれる存在です。また、足利大学が「日本留学 AWARDS」を受賞した際の祝賀会では、アフリカ各国の駐日大使を招き、音楽好きな研修員により結成された同好会「AUアフリカオールスターズ」がダンスを披露しました。

研修員は、学業面でも学会等に積極的に参加しており、韓国の学会で特別賞を受賞し

た研修員もいます。ABEイニシアティブは、地方都市の大学の研究と教育を活性化し、地域住民との異文化交流に貢献しています。

(注1)BRIGHTプロジェクト



「AUアフリカオールスターズ」は足利大学の伝統になっています

ABEイニシアティブ研修員によって立ち上がった組織、Kakehashi Africa

ABEイニシアティブ研修員は、プログラム中や修了後、多方面で活躍しています。中には、ABEイニシアティブの目的を継ぎ、日本とアフリカの関係強化のために、JICAの手を離れ独自に様々な団体・NPO等を設立する研修員や修了生も出てきています。そのような団体の中に、Kakehashi Africaという組織があります。

2016年当時、関西の大学に在籍していた第2バッチABEイニシアティブ研修員によって設立されました。「日本とアフリカ

の社会の持続可能な発展のため、日本とアフリカ市場の架け橋となること」をビジョンに掲げており、日本とアフリカの企業・研究者・起業家などを繋ぎ、日-アフリカの関係強化に貢献するべく様々な活動を行う団体です。日本企業からの委託を受けての市場調査、日本企業に対する人材紹介、日本の投資家と連携したスタートアップインキュベーションプログラムの企画・実施の他、JICAが開催する様々なイベントにも講師として登壇し、これから羽ばたいていくABEイニシアティブ研修員の育成にも関

わっています。

Kakehashi Africaには現在約1,600名が参加しており、このうち約2/3がABEイニシアティブ修了生です。それ以外にも、日本に関心のある他の元JICA留学生、元国費留学生等が同組織に参加しています。

現在、Kakehashi Africaはアフリカ48か国以上で活動しており、アフリカ全土に広がるネットワークを活用しながら、日本とアフリカの「架け橋」になるべく、日々活動しています。



2023年10月JICA主催来日プログラムで登壇するKakehashi AfricaのAliyu氏(ナイジェリア)



Kakehashi Africaのウェブサイト(<https://www.kakehashiafrica.com/>)